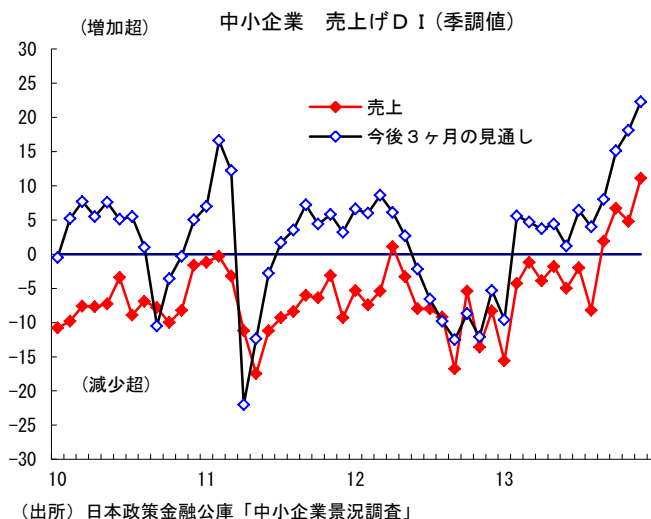
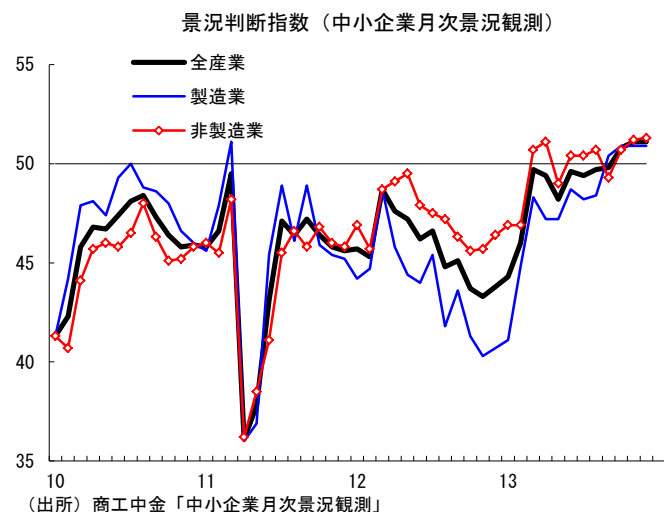


指標名：中小企業の業況(2013年12月)

発表日2013年12月27日(金)

～中小企業の景況感は良好～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 エコノミスト 高橋 大輝  
TEL : 03-5221-4524



## ○景況感は3ヶ月連続の50超。中小企業の景況感は良好

商工中金から公表された12月の「中小企業月次景況観測」(調査時点：12月上旬)の景況判断指数(1000社調査)は、全産業で51.1と前月から横ばいとなった。3ヶ月連続で景況感の好転悪化の判断基準となる50を越え、中小企業の景況感が引き続き良好であることが確認された。

業種別にみると、製造業は50.9と前月から横ばいであった。改善となったのは一般機械(前月差+6.0pt)、木材・木製品(同+5.0pt)、電気機械(同+2.0pt)である。一般機械や電気機械は、生産持ち直しや円安による企業収益の改善などの恩恵が中小企業に波及してきた可能性がある。また、木材・木製品は、建設需要の好調さなどが背景にあるとみられる。一方で鉄鋼(同▲8.0pt)や繊維(同▲2.0pt)などが悪化した。また、非製造業は51.3(前月差+0.1pt)と小幅上昇し、過去最高を更新した。6業種全てが50以上となっており、内容も良い。改善したのは小売(同+2.0pt)、トラック運送(同+2.0pt)、不動産(同+1.0pt)、サービス(同+0.2pt)で、悪化となったのは卸売(同▲3.0pt)、建設(同▲1.0pt)である。小売は7月以来の50超であり、冬のボーナス増加などを背景に個人消費が堅調だったことが窺える。

また、日本政策金融公庫から公表された「中小企業景況調査」(調査時点：12月中旬)の売上げD I(季節調整値)は+11.1(11月：+4.8)と上昇した。+10を越えるのは、1988年3月以来のことである。需要分野別にみると、乗用車関連、食生活関連、設備投資関連、建設関連が改善した。衣生活関連以外はプラスの水準であり、中小企業は幅広い分野で売上が増加しているようだ。3ヶ月後の見通しでは、乗用車関連や家電関連で大きく改善を見込んでおり、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要への期待が窺える。また、建設関連も大幅改善を予想しており、13年度補正予算などによる公共事業の増加が見込まれているようだ。

## ○12月日銀短観の中小企業の業況判断D Iも好調

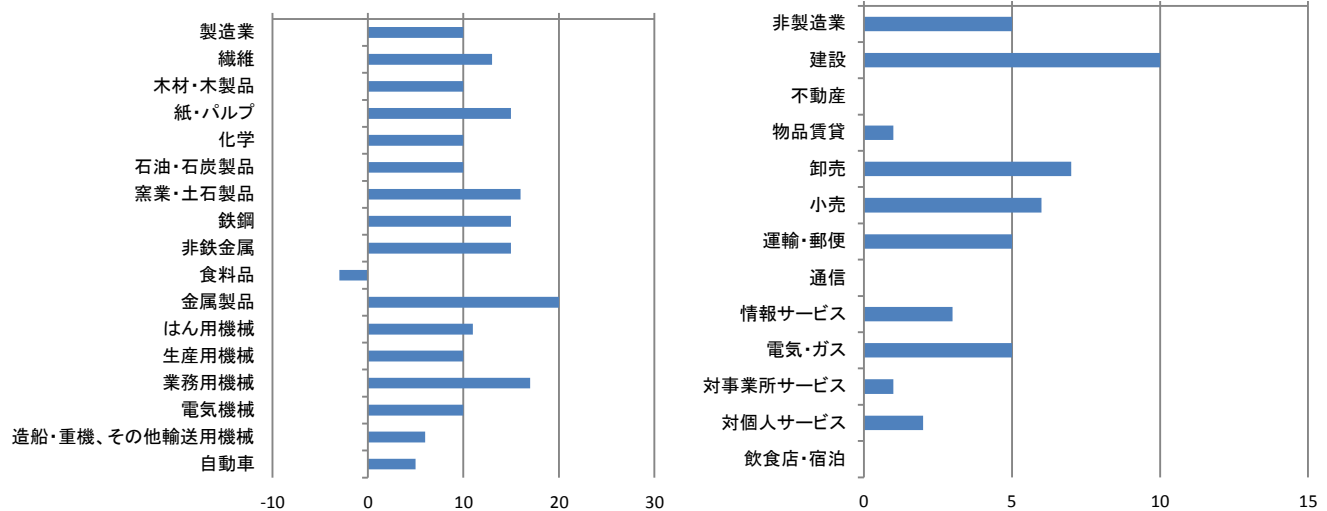
12月日銀短観で中小企業全産業の業況判断D Iは7ポイント改善の+3と、2007年1-3月期以来のマイナス圏脱出となった。内訳をみると、製造業が+1、非製造業が+4とともにプラスに転じており、幅広

い業種での改善が確認できる。

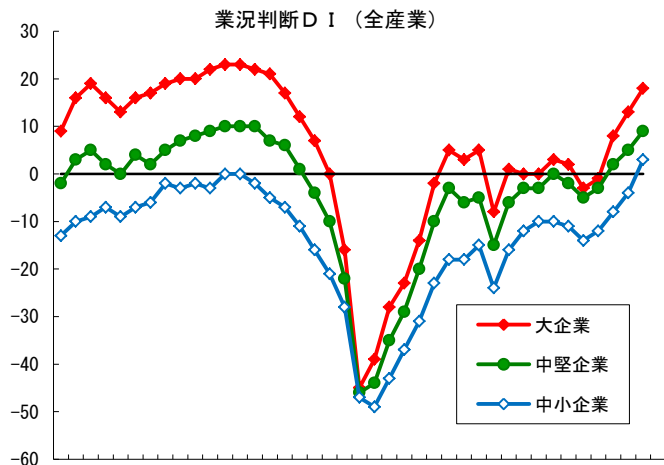
内訳をみると、製造業は食料品以外の16業種中15業種が改善となった。そのうち、13業種が2桁改善となっており、日銀短観においても中小企業景況感の好調が窺える。非製造業では、不動産や通信以外の12業種中9業種が改善となった。公共投資の増加などを背景として建設が好調なほか、卸売、小売の改善幅が大きい。

先行きについては、製造業で▲2ポイント、非製造業で▲3ポイントとそれぞれ悪化が見込まれている。3ヶ月後は消費税率引き上げの直前であり、駆け込み需要の反動への不安感などが影響しているものとみられる。もっとも、非製造業は先行きを慎重にみる傾向があることなどから、先行きの悪化が予想されていること自体を悲観的に捉える必要はないだろう。

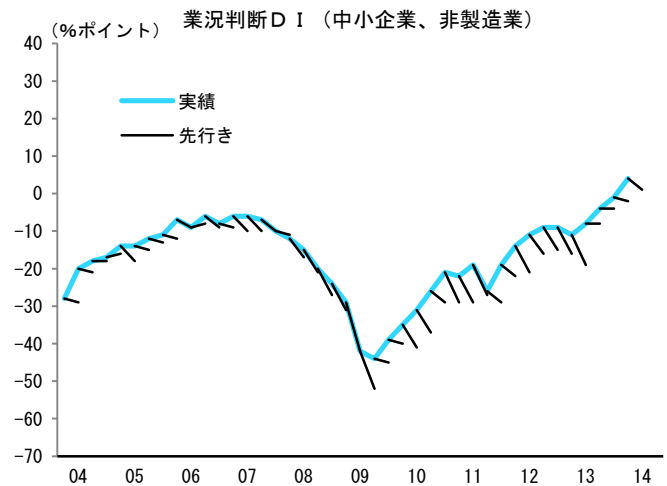
12月日銀短観業況判断DIの変化幅(中小企業、%ポイント)



(出所) 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」



(出所) 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」



(出所) 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。